

付記

観光研究

ここでは、我が国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、独立行政法人科学技術振興機構)によると、国内主要学術団体(2,017件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会(以下「国内の観光関連学会」)は、15年7月に新たに「観光情報学会」が加わり、合計11団体となっている(表付記-1)。

同学会は03年に設立された学会で、観光と情報を併せ持った研究領域としての「観光情報学」の確立を掲げ、観光産業の現場に向けて、観光と情報活用の視点から学術研究・実用研究に基づいた提言などを行うことを目的としている。本部を北海道大学大学院情報科学研究科内に置き、年1回の全国大会の開催、年2回の研究発表会の他、地域別の研究会、学術誌『観光と情報』の発行、各賞の授与、情報提供や活動支援などが行われている。

また、「学会名鑑」に掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体としては、日本旅行医学会(02年)、日豪ツーリズム学会(07年)、ものがたり観光行動学会(09年)、国際観光医療学会(10年)、コンテンツツーリズム学会(11年)などがあるが、16年1月、新たに「長期滞在型・ロングステイ観光学会」が創設された。同学会は、92年に通商産業省(現・経済産業省)の認可を受けて設立されたロングステイ財団により創設されたもので、長期滞在型観光や二地域居住、日本人の旅行形態や余暇の過ごし方などに関する研究を推進し、長期滞在型観光のさらなる振興を目指すことを目的としている。

①全国大会

15年度に開催された各学会の全国大会では、オリンピックや北陸新幹線、北海道新幹線といった旬のテーマが取り上げられた他、教育というキーワードが3つの学会で見られ、特に大学での観光教育のあり方について議論された。

また、観光立国や地方創生といった国の政策を取り上げた全国大会もあり、日本国際観光学会の全国大会「観光立国の現状と課題」では、訪日外国人旅行者の増加を背景に、改めて観光の質の向上や観光産業の高度化、日本の観光系大学のレベルアップの必要性などが指摘された。

②機関誌・学会誌

機関誌・学会誌は、11団体が合計12誌発行している(日本ホスピタリティ・マネジメント学会は2誌発行。うち1誌は英文)。

特集として設定されていたテーマとしては、『観光研究』の「今求められる、こころ軽やかにする観光」(vol.27No.1)や「観光まちづくりの担い手をどう育てるかー現場からのエッセンス」(vol.27No.2)、『観光学評論』の「観光と経済分析」(3巻2号)、「『The Tourist Gaze 3.0』を読む」(4巻1号)、『観光と情報』の「観光情報学の進むべき道ー5年後の観光産業を目指してー」(第11巻)などである。

学会誌のデジタル化については、『観光ホスピタリティ教育』(日本観光ホスピタリティ教育学会)、『観光研究』(日本観光研究学会)、『日本国際観光学会論文集』(日本国際観光学会)、『観光ホスピタリティ教育』(日本観光ホスピタリティ教育学会)がNII(国立情報学研究所)学術情報ナビゲータ「CiNii(サイニイ)」に論文の一部を公開している。

(2) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

科学研究費助成事業(以下、科研費)において、観光学は14年度より人文社会系総合人文社会分野の中に位置づけられている。

15年度は新たに203件の応募があり、そのうち57.5件が採択された(表付記-2)。配分額の合計は72,800千円となっており、1件当たりの平均配分額は1,266千円となっている(表付記-2)。

観光学における研究機関別の新規採択件数(累計)を見ると、北海道大学、和歌山大学、立教大学が5件で最も多く、次いで首都大学東京(4.5件)、帝京大学(3.5件)と続く(表付記-3)。

テーマとしては、世界遺産や生活遺産などを活用した観光地における政策や観光資源化に向けたプロセスに関する研究などが見られる他、観光地における住民の意識に関する研究、持続可能な観光振興に関する研究が見られる(表付記-4)。その他、インバウンドに関する研究やICTの活用に関する研究、旅行者行動に関する研究なども散見される。

(福永香織)

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

(設立年順)

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	<p>日本観光学会</p> <p>Japan Academic Society of Tourism (JAST)</p> <p>○正会員 300名 (2016年3月現在)</p>	<p>【会長】 三橋勇 (石巻専修大学/秀明大学)</p> <p>【本部/事務局】 石巻専修大学 三橋研究室内</p> <p>【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西支部、海外支部マレーシアサバ校</p>	<p>○全国大会の開催(年2回春・秋、基調報告、研究発表、総会、シンポジウム) (2015年度第107回全国大会:日本観光学会・総合観光学会による共催) (2015年度第108回全国大会テーマ:明日を拓く観光学 観光・文化・教育・おもてなし)</p> <p>○海外の大学・研究機関との国際学術交流(ジョイント・シンポジウム)</p> <p>○ワークショップ、研究発表、シンポジウム</p> <p>○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) 創刊号から第50号までの「日本観光学会誌CD」が完成(2014.7)</p> <p>○情報誌の発行(『とらへるじい』、年2回→休刊)</p> <p>○学会賞の授与</p> <p>○提言(2004年に「真の観光立国へ25の提言」を国土交通省へ提出)</p>	<p>【学会誌】 『日本観光学会誌』 (1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』、1961～1995年) (2015年度:第56号 論文2本、研究ノート4本、調査・資料1本、書評1本)</p> <p>【大会論文集】 『研究発表要旨集』 (年2回)</p>
2	<p>日本レジャー・レクリエーション学会</p> <p>Japan society of Leisure and Recreation Studies (JSLRS)</p> <p>○正会員 298名 ○購読会員 16団体 (2016年3月現在)</p>	<p>【会長】 鈴木秀雄 (関東学院大学)</p> <p>【本部/事務局】 早稲田大学 前橋明研究室内</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○学会大会(年1回、特別講演、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、表彰) (2015年度第45回学会大会テーマ:レジャー・レクリエーションのミッション)</p> <p>○研究会・講演会等の開催</p> <p>○機関誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』)</p> <p>○学会ニュースの発行(年2～3回)</p> <p>○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～)</p> <p>○研究の助成(研究助成金制度、2011年～)</p> <p>○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)</p>	<p>【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年2回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) (2015年度:第76号 原著2本、評論2本/第77号 第45回学会口頭発表要旨21本、ポスター発表抄録21本/第78号 評論1本、第45回学会大会基調講演、シンポジウム)</p> <p>【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)</p>
3	<p>余暇ツーリズム学会</p> <p>The Association for Leisure and Tourism Studies</p> <p>○研究者 132名 ○実務家 90名 ○大学院生 26名 ○賛助会員 6名 (2016年2月現在)</p>	<p>【会長】 飯嶋好彦 (東洋大学)</p> <p>【本部/事務局】 東洋大学 国際地域学部国際観光学学科内</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○学会大会の開催(年1回、エクスカーション、統一論題発表、基調講演、研究発表等) (2015年度全国大会テーマ:オリンピック・レガシー余暇ツーリズムの観点から、東京オリンピック・パラリンピック2020を活用して次世代に残すべき無形遺産を探る)</p> <p>○支部大会の開催(年2回、研究発表等)</p> <p>○研究会・分科会の開催(テーマ・ブロック別、2006年まで47回開催、以降は不定期開催)</p> <p>○研究誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』)</p> <p>○ニュースレターの発行(年4回)</p> <p>○図書の編集(『余暇学を学ぶ人のために』『余暇事業論一多様化する余暇事業の未来予測』等、合計4冊)</p> <p>○受託研究</p> <p>○会員の研究活動支援</p>	<p>【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』 (前身『余暇学研究』1998年～2013年) (2014年3月～、年1回) (2015年度:第3号 論文4本、研究ノート3本、報告1本、書評・書籍紹介2本)</p> <p>【大会論文集】 『余暇ツーリズム学会大会研究報告予稿集』 (2013年～、年1回)</p>
4	<p>日本観光研究学会</p> <p>Japan Institute of Tourism Research (JITR)</p> <p>○正会員 948名 ○準会員 6名 ○名誉会員 8名 ○賛助会員 4団体 ○特別会員 7団体 (2016年5月現在)</p>	<p>【会長】 吉兼秀夫 (阪南大学)</p> <p>【本部/事務局】 立教大学 観光学部内</p> <p>【支部】 関西支部(2003年7月設立) 九州・韓国南部支部(2007年4月設立) 東北支部(2015年3月設立)</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表) (2015年度第30回全国大会:シンポジウム「温泉観光地の将来を考える」)</p> <p>○総会の開催(年1回、講演、ポスターセッション、学会賞表彰、シンポジウム)</p> <p>○研究分科会、研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催</p> <p>○支部活動</p> <p>○機関誌の発行(『観光研究』)</p> <p>○会報の発行(『学会報』、年4回)</p> <p>○メールニュースの配信</p> <p>○特別研究の助成</p> <p>○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～)</p> <p>○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定)</p> <p>○観光研究に関する外国諸団体との交流 等</p>	<p>【学会誌】 『観光研究』 (1987年～、年2回) (2015年度:Vol.27 No.1 論文7本/Vol.27 No.2 論文2本)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会学術論文集』 (1986年～、年1回)</p>
5	<p>日本国際観光学会</p> <p>Japan Foudation for International Tourism (JAFIT)</p> <p>○正会員 381名 ○学生会員 50名 ○賛助会員 2名・2団体 (2016年2月現在)</p>	<p>【会長】 島川崇 (東洋大学)</p> <p>【本部/事務局】 千代田区三崎町 T・Yビル5階</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表) (2015年度第19回全国大会:観光立国の現状と課題)</p> <p>○例会の開催(研究発表、講演、年5回)</p> <p>○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』)</p> <p>○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(年6回、2003年～)</p> <p>○会報の発行(年4回)</p> <p>○国内外でのシンポジウム開催</p> <p>○国際観光研修旅行の実施</p> <p>○教科書・学術書の出版(『新版 旅行業入門』『観光学大事典』等)</p> <p>○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文)</p> <p>○国際観光に関する学術調査および研究</p> <p>○内外の企業、団体、個人よりの委託研究</p> <p>○関連学会、協会との連絡および交流</p>	<p>【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』 (1993年～、年1回) (2015年度:第23号 論文17本、研究ノート7本)</p> <p>【全国大会梗概集】 (2001年～ 年1回発行)</p>
6	<p>日本ホスピタリティ・マネジメント学会</p> <p>Japan Academic Society of Hospitality Management (JASH)</p> <p>○正会員 258名 ○学生会員 7名 ○名誉会員 6名 (2016年2月現在)</p>	<p>【会長】 高橋武秀 ((一社)日本自動車部品工業会)</p> <p>【本部/事務局】 日本大学 山本壽夫研究室内</p> <p>【支部】 関東支部、関西支部、九州支部</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、シンポジウム) (2015年度テーマ:都市とホスピタリティ)</p> <p>○研究専門部会の開催(適宜)</p> <p>○ホスピタリティ・コンベンションの開催(年1回、2008年まで)</p> <p>○研究発表会(各支部それぞれ年2回)</p> <p>○学会誌の発行(『HOSPITALITY』『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』)</p> <p>○図書・報告等の発行</p> <p>○学会賞の授与(日本ホスピタリティ・マネジメント学会大賞等)</p> <p>○内外の学会、その他関連団体と連絡</p>	<p>【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度:年1回、2013年～:年2回) (2015年度:24号 論文5本、研究ノート1本/25号 論文3本、研究ノート2本)</p> <p>【International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management】 (2012年～、年1回(2013年は年2本)) (2015年度:Vol.3 No.2 論文3本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○正会員 195名 ○学生会員 43名 ○法人会員 5団体 (2016年2月現在)	【会長】 山下晋司(帝京平成大学) 【本部/事務局】 日本大学 商学部内 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年2回、研究発表、シンポジウム、特別講演、パネルディスカッション、視察研究) (2015年度第28回全国学術研究大会:日本観光学会・総合観光学会による共催第29回全国学術研究大会) ○学会誌の発行(『総合観光研究』) ○会報の発行 ○海外の研究者との交流 ○研究成果を著書として発刊 ○観光関連の文献・データの収集	【学会誌】 『総合観光研究』 (2002年～、年1回) (2014年度:第13号) 【大会論文集】 なし
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 113名(個人会員111名、法人会員2団体) ○名誉会員 5名 (2015年11月未現在)	【会長】 長谷川明(八戸工業大学) 【本部】 八戸工業大学 長谷川研究室 【事務局】 (一社)岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○研究発表会の開催(年1回) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞)	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』 (2003年～、年1回) (2015年度:第13号 論文3本) 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators (JSTHE) ○正会員 149名 ○准会員 9名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 3名 (2016年2月現在)	【会長】 小畑力人(追手門学院大学) 【本部/事務局】 杏林大学 外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、シンポジウム、研究発表・教育実践報告、ワークショップ) (2015年度第15回全国大会テーマ:“観光ホスピタリティ教育における高大接続”～高校教育と大学教育の改革と接続、そして新テスト～) ○シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～4回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○学会報の発行(年3回程度) ○外国語団体との交流 ○研究の奨励と研究業績の表彰	【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』 (2006年～、年1回) (2014年度:第8号 論文1本、教育実践報告1本、書評3本、大会報告、総会報告) 【大会論文集】 『全国大会論文集』 (年1回)
10	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies ○正会員(一般) 287名 ○正会員(院生) 65名 ○准会員 6名 (2016年2月現在)	【会長】 橋本和也(京都文教大学) 【本部/事務局】 (有)地域・研究アシスト事務所内(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、特別講演、シンポジウム、総会、一般研究発表、学生ポスターセッション) (2015年度第4回全国大会テーマ:フォーラム「大学における観光教育」、シンポジウム「『The Tourist Gaze 3.0』を読む」) ○研究会の開催 ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○ニュースレターの発行 ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』 (2012年度～、年1回/2013年度～、年2回) (2015年度:第3巻2号 特集論文3本、展望論文1本、書評1本/第4巻1号 特集論文3本、展望論文2本、書評1本) 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』 (2012年度～、年1回)
11	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 122名 ○賛助会員 31名 ○団体会員 8団体 (2016年2月現在)	【会長】 大数多可志((学)国際ビジネス学院学院長) 【本部/事務局】 北海道大学大学院情報科学研究科内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、学術講演セッション、総会) (2015年度第12回全国大会:北陸・北海道新幹線開業による地方創生と課題) ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカーション) ○観光情報研究会の開催(いわて、オホーツク圏、かが・のと、さっぽろ、たいせつかみイ、ちゅうしこく、はこだて、東アジア、とうかい) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援 等	【学会誌】 『観光と情報』 (2005年度～、年1回) (2015年度:第11号 学術研究論文8本、特集記事6本) 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』 (2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』 (2009年度～、年2回)

資料:データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2016年6月現在)
注:データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構、http://gakkaist.go.jp/gakkai/control/toppage.jsp)に収録されている国内の主要学術団体(2,017件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

表 付記-2 科研費における「観光学」の採択状況と予算配分状況

	応募件数	採択件数(新規)	配分額(直接経費)(千円)	1課題当たりの平均配分額(千円)
2015年度	203	57.5	72,800	1,266
2014年度	223	68	102,200	1,503

※科研費全体の直接経費予算額は1,776億円
※平成27年度科学研究費のうち、「特設分野研究」および「奨励研究」を除く研究課題(新規採択分)について分類
※「若手研究(B)」の新規採択課題で2つの細目を選択したものについては、件数、配分額を按分して集計
資料:文部科学省「平成27年度科学研究費助成事業の配分について」より(公財)日本交通公社作成

表 付記-3 科研費における「観光学」の採択数上位10機関

順位	機関名	新規採択累計数	応募件数累計数	累計配分額(千円)
1	北海道大学	5.0	17.0	11,500
1	和歌山大学	5.0	17.5	3,700
1	立教大学	5.0	8.0	11,600
4	首都大学東京	4.5	6.0	9,400
5	帝京大学	3.5	5.5	2,550
6	筑波大学	3.0	7.0	12,900
6	奈良県立大学	3.0	6.5	3,900
6	東洋大学	3.0	8.0	5,700
9	琉球大学	2.5	6.5	3,200
9	早稲田大学	2.5	6.0	5,500

※「若手研究(B)」の新規採択課題で2つの細目を選択したものについては、件数、配分額を按分して集計
※平成26・27年度の2年間の件数を算出
資料:文部科学省「平成27年度科学研究費助成事業の配分について」

表 付記-4 科研費における「観光学」の採択研究課題

研究課題	研究種目	研究機関
世界遺産の創造と場所の商品化に関わる理論的・実証的研究	基盤研究 (A)	筑波大学
複数の観光交通データの融合的活用方法の開発と政策評価への展開	基盤研究 (B)	筑波大学
途上国における国内観光成長の歴史的背景と社会・文化的影響に関する総合的研究	基盤研究 (B)	立教大学
日本酒文化を核とした地域・観光振興に関する総合研究—6次産業化戦略をめぐって—	基盤研究 (B)	京都女子大学
The potential of war heritage sites as educational and touristic attractions in Japan: comparative studies with five relevant countries	基盤研究 (B)	立命館アジア太平洋大学
観光ウェブサイトに対するテキストマイニングによる分析とプロモーション戦略の検討	基盤研究 (C)	山形大学
オーストリアの観光事業における「ハズブルク・イメージ」に関する文化史的研究	基盤研究 (C)	横浜国立大学
中国四川省における伝統的資源活用型観光地の開発保全意識に関する研究	基盤研究 (C)	山梨大学
リニア中央新幹線開業を活かした地域づくりのあり方：岐阜県を事例に	基盤研究 (C)	岐阜大学
産業観光の複合化モデルの構築	基盤研究 (C)	名古屋工業大学
観光における「まちづくり」の意味と知識循環型クラスターについての研究	基盤研究 (C)	和歌山大学
観光の発展に伴う都市空間形成の変化と生活者による空間への関与に関する研究	基盤研究 (C)	和歌山大学
国有林野の「協働型管理」におけるツーリズム活用・創出の意義と課題	基盤研究 (C)	和歌山大学
移住政策、滞在型観光との接合による地域経営	基盤研究 (C)	愛媛大学
島嶼地域の世界自然遺産登録の経験と遺産概念の再考—人文社会系世界遺産モデル—	基盤研究 (C)	鹿児島大学
三陸沿岸地域における観光地特性と旅行者特性の適合性評価手法に関する研究	基盤研究 (C)	岩手県立大学
世界遺産観光地と住民のエンパワメントに関する研究	基盤研究 (C)	高崎経済大学
歴史的町並みにおける外国人観光客・住民間交流と地域理解促進の関係の類型化	基盤研究 (C)	首都大学東京
地域資源マネジメント手法としての「資源一斉公開プログラム」の有用性と可能性	基盤研究 (C)	首都大学東京
「おもてなし」の多面性に関する実証的国際比較研究	基盤研究 (C)	静岡県立大学
高野山の外国人観光客に見る観光体験の総合的研究	基盤研究 (C)	大阪府立大学
ギリシャにおける伝統的集落の保存・再生事業と「強い」観光地形成の政策研究	基盤研究 (C)	奈良県立大学
南アジア地域の持続可能な観光とコミュニティ・ベースド・ツーリズムに関する比較研究	基盤研究 (C)	奈良県立大学
道の駅を活用した観光振興と防災インフラに関する研究	基盤研究 (C)	奈良県立大学
潜在的な地域特性の表出による観光魅力づくりに関する研究	基盤研究 (C)	札幌国際大学
東北地方の観光産業の競争力向上に資する企業間連携の在り方に関する実証研究	基盤研究 (C)	東北学院大学
タイにおけるコミュニティ・ベース・ツーリズムの経済人類学的研究	基盤研究 (C)	獨協大学
代替性のない魅力が生み出すファンツーリズムに関する研究	基盤研究 (C)	東京成徳大学
文化資源の集散地の形成・発展メカニズムに関する研究：ジャパニエキスポを事例として	基盤研究 (C)	亜細亜大学
アジア近隣諸国と日本のレジャー活動データ比較	基盤研究 (C)	桜美林大学
学校教育における観光教育の教材開発とカリキュラム立案	基盤研究 (C)	玉川大学
ホテル資産運用管理にかかわるステークホルダーの構造的関係—日米比較研究を中心に—	基盤研究 (C)	帝京大学
観光地における地域ブランド構築のための戦略に関する研究	基盤研究 (C)	立教大学
鉱山遺構の遺産化と観光化をめぐる比較研究	基盤研究 (C)	早稲田大学
ICTを活用した旅行者の情報検索及び観光行動の分析	基盤研究 (C)	金沢星稜大学
21世紀の高齢化社会における岐阜県高山市の福祉観光都市政策の評価と今後の展望	基盤研究 (C)	岐阜聖徳学園大学
観光の持続可能性と日本型指標システムの確立を目指して	基盤研究 (C)	名城大学
観光目的地におけるマネジメント組織に関する理論的・実証的研究	基盤研究 (C)	近畿大学
民俗芸能の観光化にみるグローバル化と再ローカル化に関する研究	基盤研究 (C)	筑紫女学園大学
景観変化とイメージ創造に基づいたリゾート発展モデルの構築	挑戦的萌芽研究	筑波大学
被災地の復興に寄与するユニバーサルツーリズムの開発と実践	挑戦的萌芽研究	大阪大学
四国における県境経済圏のデータベース構築	挑戦的萌芽研究	愛媛大学
「聞き書き」による着地型ツーリズムの可能性—愛知県高浜市の活動実践を中心に	挑戦的萌芽研究	名古屋市立大学
外国人観光客への最新ICTを取り入れた観光情報発信手法の研究	挑戦的萌芽研究	札幌国際大学
自然保護地域におけるICTを活用したスマートツーリズムと実践型観光学教育	挑戦的萌芽研究	稚内北星学園大学
国際観光地ニセコにおけるオーストラリア人コミュニティの形成と多文化研究	挑戦的萌芽研究	麗澤大学
包括的連携価値化による都市の文化的景観づくりと観光まちづくりへの応用に関する研究	挑戦的萌芽研究	岐阜女子大学
女性と観光に関する総合的研究	挑戦的萌芽研究	四日市大学
九州における多地域間連携「共創」観光地域づくりに関する研究	挑戦的萌芽研究	大分県立芸術文化短期大学
地域資源の経済評価：観光による選好形成に着目した実証研究	若手研究 (B)	山形大学
人口希薄地域における生活・生業系文化遺産を対象とした観光マネジメントに関する研究	若手研究 (B)	和歌山大学
東京都心に集中するインバウンドの分散化に資する周縁地域への誘導政策の構築	若手研究 (B)	帝京大学
eWOM Generation Systems for International Tourism Promotion with Augmented Reality	若手研究 (B)	成美大学
観光学原論と観光教育への哲学・倫理学理論の導入に関する基礎的研究	若手研究 (B)	神戸夙川学院大学
住宅利用を中心とした登録文化財の保全実態と観光資源化に関する研究	若手研究 (B)	高知工業高等専門学校
都市圏周縁コミュニティにおける地域的公共性構築に関する観光社会学的研究	若手研究 (B)	越智 正樹
商圏分析による温泉客の距離的属性と温泉地の競争関係に関する研究	若手研究 (B)	高崎経済大学
観光行動の動態シミュレーションとその地理的可視化の手法構築	若手研究 (B)	首都大学東京
イスラミック・ツーリズムにおける社会的企業をめぐる実証・理論研究	若手研究 (B)	帝京大学
インドネシア・バリ州における民主化後のジレンマ：観光開発と文化保全	若手研究 (B)	立命館大学
イタリヤ農村部の観光振興による地域の持続性向上プロセスの研究	研究活動スタート支援	帝京大学
産業遺産の観光資源としての活用に見るモダニティの変容と真正性の構築に関する研究	特別研究員奨励費	北海道大学
コンテンツツーリズムを通じた北海道の地域振興に関する比較研究	特別研究員奨励費	北海道大学

※研究期間の開始年度を2015年度とするもの
資料：科学研究費助成事業データベースより（公財）日本交通公社作成